

阿多多羅

第106号

発行

令和7年7月28日

責任者

福島県公立学校

退職校長会安達支部

佐藤 英之

【巻頭言】



旧友を温める

支部長 佐藤 英之

今年度から退職校長会安達支部の支部長に選任され身の引き締まる思いです。皆様のご理解とご協力をいただき務めてまいりたいと思います。

本会の目的を再確認することで今後すべきことが分かるかと思ひ改めて本会の目的を読み直してみました。「この会は本会と連携を保ちつつ、会員相互の旧友を温め、生活の向上を図るとともに、本県並びに我が国の教育の向上に資することをもって目的とする。」とあります。現在の社会や教育現場には大きな変化が見られます。いずれ

来るだろうという心配や存在する課題がコロナ禍後に一気に押し寄せた気がします。戦後八十年続いたある団体の活動が消滅してしまいました。組織を維持することの難しさを感じられました。また、人口減少、少子化問題も大きな問題です。令和五年に報道された報道記事は、令和五十年までを想定すると県内のある市は、封鎖人口（人口の移動がなく、死亡する人口と誕生する人口の差）は、三十%減、若い女性の移動想定（減少率）が約六十%という衝撃的なものでした。学校現場でも多くの変

化が見られます。「学校の適正規模・適正配置」の検討など大きな課題があります。児童生徒の減少は中体連などの活動にも影響し、今年からは安達支部中体連の大会はなくなり、県北大会から行

るように感じています。私も地元の小学校で地域災害に関する講話を依頼されたり、子どもたちの地域清掃活動に参加したりしたこともあります。そんなちよつとしたことでも学校を支援することに繋がっていくのかなと思います。

われるようになりました。また、部活動改革・地域移行も大きな課題となっています。さらに教員不足や働き方改革の問題、授業の変化などです。二本松市では全ての学校がコミュニティスクールとなり、地域の中の学校として地域が学校運営に参加し、子ども達や学校を支えています。さて、私たちが今まで行ってきた活動は目標達成のための活動であることも確認できました。陳情活動、研修、現職校長会教育懇談会、「ふくしまを十七字で奏でよう」審査協力などです。私達には、子ども達を健やかに心豊かに育てる、持っている能力を伸ばす教育を推進した経験やその時代、その時代の諸課題を捉え課題を乗り越えて学校を経営してきた経験を持っています。学校を取り巻く課題に関して私たちができることは多くあ

さて、旧友を温めるという本会の第一の目的を達成するためには、なんといっても多くの会員の皆様が参加できるよう工夫していききたいと思います。また、その中で互いの情報交換の場になるようにしていきたいと考えています。現在は会員の中には働いている人が多くいます。無理のない範囲で活動することも大事かと思っています。できるだけ研修も土曜日に開催するなどに変化してきています。今年度からの役員はこの会報に記載した通りですが、役員の中にも働いている人もいます。工夫して会を盛り上げられるように努力していきたいと思っています。「旧友を温める」皆様に会えるとホッとして元気をいただきます。これが本会の大きな目標の一つなのだと思います。今後多くの皆様の参加をお願いいたします。

令和七年度（第六十一回）

安達支部総会を開催

令和七年度退職校長会安達支部総会は、四月十九日（土）四十三名の会員の出席のもと二本松御苑を会場に開催されました。開会に先立ち、この一年間に亡くなられた本会会員の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げました。角田恒雄副支部長の開会のことばの後、伊藤末吉支部長の挨拶では、これまでの各種支部事業への支援協力や昨年度開催された「創立六〇年福島県退職校



伊藤支部長の挨拶

長会二本松大会」に対する感謝の言葉を述べられ、さらに、今年度の長寿会員等に該当する会員の皆様へのお祝いと新入会員六名様への歓迎の言葉がありました。また、今年度の二回の研修会、現職校長との教育懇談会の充実を図っていききたいと話し、挨拶を終えました。



本年度の総会の様子

続いて、出席いただいた新入会員の郡司博明様、及川博睦様、

齋藤直様から、それぞれご挨拶をいただきました。

福本隆氏が議長に選出され、議事の審議となりました。

一、令和六年度事業（会務）報告

二、令和六年度会計決算報告

二本松大会会計報告

監査報告

三、令和七年度事業報告（案）

四、令和七年度会計予算（案）

五、令和七年度役員組織

会則第五条及び第六条の規定に基づき、令和七年度の役員改選が行われました。三方部七名（旧二本松二名・東達二名・南達二名・事務局一名）の代表による選考委員会を開催し、次の六名の新役員が提案され、全会一致で承認されました。

支部長 佐藤 英之氏

副支部長 井関 和明氏

副支部長 角田 恒雄氏

副支部長 高島 徹也氏

監事 安田 幹雄氏

監事 小濱 伸氏

議事内容は全て承認され、新旧役員の挨拶が行われました。

その後、安達支部事務局規程

に基づき、支部長から、事務局の組織に関する指名がありました。

事務局長 渡部 祐司氏

庶務 紺野 宗作氏

庶務 渡邊 健順氏

会計 佐藤 則之氏

最後に、松浦健二副支部長が閉会のことばを述べ総会は終了しました。

総会終了後は、小島喜一顧問の発声で、和やかな雰囲気の中で懇親会が開催されました。

久しぶりにお会いする方も多く、会員相互の親睦を深めることができました。



新しい役員の方々

県退職校長会 会津大会参加



令和七年六月十日（火）に第五十九回福島県公立学校退職校長会会津大会が、南会津町田島の御蔵入交流館において開催された。本支部からは、伊藤末吉前支部長、佐藤英之支部長、角田恒雄副支部長、渡部祐司事務局長の四名が参加した。

開会式では、福士寛樹大会会長挨拶、続いての齋藤修一大会実行委員長挨拶で、今大会の三つの特徴について説明があった。①大会テーマを「共生と持続可能な社会の実現に向けて貢献するために」と掲げ、自己実現型から地域社会貢献型へと転換。

②環境に配慮し、弁当のゴミ・ペットボトル・紙の削減。

③大会宣言を、内なる宣言ではなく外へ向けての宣言とし、全員で唱和。

開会式のあと、合同会社ねっ



大会宣言を全員で唱和

か代表 脇坂斉弘氏による「米焼酎ねっか 只見で生き抜く」と題しての講演会が行われた。

脇坂氏は、郡山市出身、結婚を機に南会津に移住し、酒造「花泉」で日本酒造りに携わり、そこで過疎地の抱える切実な課題（地域産業の衰退、若者の流失、進む少子高齢化など）に直面した。その解決に向けた一歩として、地元の素材を活かした米焼酎ねっかの酒造り、そして地域への思いや子どもたちの夢を大切に、地域を巻き込んで様々な事業を展開し、働く場を提供している。「目指すことは百年企業。地域が百年続くこと！」まさに本大会テーマに通じる「持続可能な社会の実現」に向けた熱い思いの伝わる講演会だった。

午後の体験発表では、伊達支部矢館実也氏が「写真人生かきくけこ」と題し、写真展の開催や地域での指導講師を務めるなど、趣味を超えプロ並の実践活動を発表した。続いて田村支部が「支部の現状と活性化に向けた課題」と題し、会員の交流を軸とした持続可能な会活動を目指した取組みについて発表した。

どの支部でも抱えている共通課題でもあり興味深い発表だった。最後に双葉支部小野田敏之氏が、「震災と事故後十四年、双葉の今」と題し、これまでの多くの支援に対する感謝と、双葉支部会員の現状、今後の取組みについて発表した。あらためて「双葉の灯は消さない」を全員で再認識させられた。

今大会は、テーマに基づいた工夫と効率化が随所に見られ、今後の県大会の方向性や運営のあり方等について考えさせられる有意義な大会となった。



本支部4名の参加者

第二回研修会開催

六月二十一日(土) 十時より、二本松市文化センターにおいて、退職校長会安達支部会員である小林雄一先生の講演会を本支部会員二六名の参加のもと開催しました。

小林先生は、現在、二本松市教育委員会文化課に勤められており、平成三年三月に二本松市教育委員会から発行された『二本松の戊辰戦争』(時代の激流にほんろうされた二本松藩と人々)を、中心となって編集された方です。現在、二本松市の中学生の社会の副読本として活用されております。

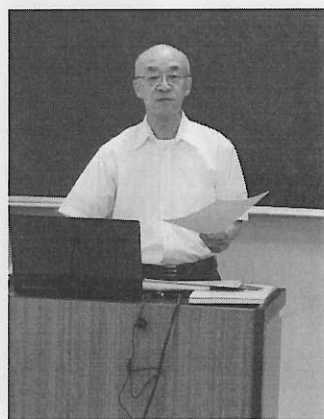
研修会での演題は、「二本松藩の戦い」。二本松の戊辰戦争というと二本松少年隊と落城に焦点が当てられがちですが、二本松藩と三春藩の境での戦いに焦点を当てたお話でした。

旧糠沢村の「上ノ内の戦い」、旧白沢村の「塩ノ崎の戦い」、旧松沢村の「二ツ橋の戦い」など二本松藩のそれぞれの番所周辺での戦いの様子を、史資料を

基にしてご説明されました。また、実際の戦いの場所を訪ねられ、地元の人から聞いた話を史資料と重ね合わせてのお話は、とても興味深い内容でした。

特に、地元の百姓に道案内させスピーディーな進軍を可能にしたことを戦いのポイントに挙げました。また、地元の百姓が案内した峠道(くきみち)の存在は、これまでの日本の様々な歴史上の戦いにおいてもポイントになっていたのではないかとのお話がありました。

最後に、佐藤英之支部長が御礼のことばを述べ、参加者一同深い感銘を受け研修会は終了しました。



研修会参加者の感想

もう一つの

戊辰戦争を知る

日下部善己

小林雄一先生は『二本松の戊辰戦争』の編集を契機にこの時代史の研究を進める中で、歴史を説明するには「史資料」「現場」「地元の人のお話」そして「峠道(くきみち)」が重要な手がかりになる、と思いついたそうです。

私も若い頃から新たな勤務地等、初めての土地に足を踏み入れる時には「先ず探そう! 尾根道、谷道、郷土史家」を心がけてきましたので、この話にはとても感じ入りました。

さて、小林先生の講演「二本松藩の戦い」は、豊富な史料と旧跡の現地踏査を基に構成されており、大学の「史料講読」のような展開となりました。

三春藩の不戦・帰順によって西軍(新政府軍)は、素早く三春から二本松藩領小浜・本宮方面へと進軍しました。案内は地元の方に詳しい農民等でした。

これに対し急な対応に迫られた東軍(旧幕府軍)の二本松藩兵・農兵は、白沢の二ツ橋、堀、塩ノ崎、上ノ内(城ノ内)で迎撃しました。その時村人の身辺には何が起こっていたのか、先生は農兵の訓練や戦闘の姿をあたかも目前の出来事のように熱く語られました。

藩領内の戊辰戦争と言えば、西軍渡河と本宮、城下大壇口と二本松少年隊、供中口の三浦権太夫義彰と農兵がよく知られています。また私が以前担当した大玉村歴史民俗資料館企画展「ふるさとの慶応四年」で紹介した玉ノ井山入(手志子森)の戦いがあります。

しかし、先生が話題とした白沢での戦いは「アナザーストーリー・農民たちの戊辰戦争」でした。事後、隣席の方が「白沢でも戊辰戦争があったとは!」と述懐されており、聴講した皆様にとっても戊辰戦争史の新発見、目から鱗の楽しい研修会だったのではないのでしょうか。私も史料に当たりながら遙か昔の学生時代に戻ったかのような一時を味わうことができました。小林先生に感謝いたします。

本地区長寿会員の紹介

年度内満八十五歳

倉島 紀昭氏

鈴木 義雄氏

鈴木 隆雄氏

全連退賀詞会員の紹介

年度内満八十八歳

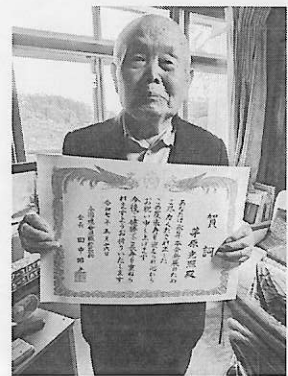
渡邊 一弘氏



穀野 只信氏



茅原 光照氏



高橋 健二氏



懸田 弘訓氏



全連退寿詞会員の紹介

年度内満百歳

杉内 豊徳氏



杉内 豊徳様から

「私は生まれも育ちも樺太でした。樺太の師範学校で学び、終戦を迎え日本に帰ることになり、縁あって福島県の師範学校に転学と同時に卒業となりました。そして、福島県の教員を拝命し四十年間、退職後もさらに四十年間福島県でお世話になり今に至っております。大変ありがたいことだと思っています。」

高齢者叙勲受章会員の紹介

暦年内満八十八歳

渡邊 一弘氏

穀野 只信氏

茅原 光照氏

高橋 健二氏

懸田 弘訓氏

叙位叙勲受章の紹介

従六位

須賀 紀一様

令和七年三月九日ご逝去
(元二本松第一中学校長)

☆☆心よりご冥福を
お祈り申し上げます☆☆

菅野 次男 様

令和七年四月十六日

ご逝去

○元岳下小学校長

クラブ活動の紹介



フォトαクラブの活動

本クラブは令和三年四月、三名で活動を開始しました。歴史的には、写真と自然探勝の二クラブが会員高齢のため活動終了となり、それをカバーしようとして二月に一度（奇数月）に行うことを基本に始めました。

現在は、佐藤邦英・伊藤末吉・小林淑人・佐藤吉郎の四名が中心となり、写真や絵画などの趣味や関心のある資料を持ち寄っています。この中では、活動領域や内容を広げたり深めたりする機会があり、脳の老化を防ぐ機会になっています。

残念ながら、教職員の退職後の生活は、退職年齢が六十五歳となり、その後も働く方が多くなったため、組織として活動する難しさが増えています。

私は、本会の支部長をこの春まで務めました。役得を感じていたことは、先輩諸兄のご自

宅に賀詞などを届ける折りに、皆さんの若き日の思い出話を聞いたり写真などを見せてもらったりすること、私自身の若き日や老後を考える機縁になることとです。

これからもフォトαクラブの活動を続け、退職校長会のみならず、地域の方と関係を深めながら、生活の潤いと気力を保ち、前向きに歩みたいと思います。

左の写真は、福島県男女共生センター三階ロビーで、毎年二回実施（三月と七月）するフォトαクラブ・総合文化愛好会の『第八回合同展』の様子です。



3月の『合同展』の様子

令和七年度支部役員

支部長 ○佐藤 英之
副支部長 ○角田 恒雄

○高島 徹也

監事 井関 和明

安田 幹雄

顧問 小濱 伸

久保 恒義

石川 不二雄

理事 ○伊藤 末吉

○三津間勝彦

○鈴木 則雄

○草野 和代

○服部 健

○服部 啓吉

○松浦 健二

○小松 佑

○宮前 貢

○松井 義孝

○菊池 勇人

○福本 隆

○松本 公秀

○鈴木 一高

○小池 重彰

○渡辺光太郎

○渡部 祐司

事務局長

庶務 ○紺野 宗作

○渡邊 健順

会計 ○佐藤 則之

佐藤 英之

県評議員 渡部 祐司

宮前 貢

県理事 安田喜市郎

原瀬久美子

（○は理事）

今年度は役員改選の年でした。新しい支部長に佐藤英之氏が就任しました。前支部長の伊藤末吉氏は顧問となり、副支部長に高島徹也氏、井関和明氏、監事には小濱伸氏が就くことになりました。また、三津間勝彦氏が新たに理事となりました。

事務局長は渡部祐司氏、庶務は紺野宗作氏、会計は佐藤則之氏が担うこととなり、そのほかの役員は継続となりました。

前支部長伊藤末吉様、副支部長の松浦健二様、監事の松本佑様、理事の菅野藤雄様には、長期に亘って支部の運営に携わっていただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。